

OLC オアシスライフ・ケア

私たちは、2011年3月11日の東日本大震災を期に

オアシスチャペル利府キリスト教会によって設立された非営利のボランティアグループです。

※法人設立準備中

目次

挨拶・活動理念

オアシスライフ・ケアの松田牧人代表（オアシスチャペル利府キリスト教会・牧師）からの挨拶です。

ページ 1-2

諸活動報告

私たちがこれまでに行ってきた様々な活動を紹介いたします。

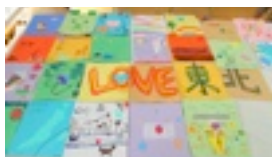
ページ 3-5



会計報告

2011年3月11日から9月14日までの会計報告です。

ページ 6



挨拶

継続は 力なり

「教会さんは長く関わってくださるんですね？」と、遠慮がちに尋ねられた南三陸町・沼田地区のあるご婦人の言葉と表情が今も心に残っています。あれからあっという間に数ヶ月の時が流れました。

これまで、南三陸町・沼田地区と石巻市寄磯浜を中心に、自転車、冷凍庫・扇風機・掃除機などの電化製品、飲料水や食料、衛生用品や日用雑貨等の様々な物資を週1~2回のペースでお届けしてきました。また、フェスタの開催、炊き出し、コンサート、アートやダンスを通してのセラピーなどなど、スタッフとボランティアが協力しながら無我夢中で取り組んできました。



「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたを休ませてあげます。」

マタイの福音書11章28節

これらの小さな働きを通して目指していることは、地域の方々とながら「あなたはひとりじゃない」というメッセージを届けることです。無機質で味気ない一方的な支援活動ではなく、互いに助け合い、協力し合うような「関係」「絆」を作りたいと願っています。最近では、「あがってお茶っこ飲んでいがい〜ん（家にあがってお茶を飲んで行ってください）」という声をかけられた

り、煮物や漬け物、スイカなどをお土産にもらったり...ということが起こっています。沼田地区の皆さんとOLCが協力して開催したお祭り「沼田フェスタ」は本当に素晴らしいものになりました。

「長い関わり」は、まだ始まったばかりです。これからは、雇用支援プロジェクトも始動していくつもりです。寒い冬もすぐにやって来ます。このニュースレターをお読みのみなさん、ご協力に感謝します。どうぞ継続的なお祈りとサポートをよろしく願いいたします。

「正しい行ないをすることに疲れ果ててしまわないようにしましょう。失望せず、あきらめずにいれば、やがて祝福を刈り取る日が来るからです。」（ガラテヤ人への手紙6:9；新約聖書リビング訳）

オアシスライフ・ケア代表 松田牧人



OasisLife CAREの活動理念

わたしたちのミッション・ビジョン・プラン

–Mission–

使命

わたしたちの使命は、
宮城県をはじめとする東日本
大震災被災地域において
キリスト教精神に基づく
支援活動を行い、
人々の心と人生に
「あなたはひとりじゃない」
というメッセージを届ける
ことです。

–Vision–

目標

この東北の地において
“今日 (いま)”
の必要が満たされますように
“明日 (みらい)”
の必要が満たされますように
“永遠 (とこしえ)”
の必要が満たされますように

–Plan–

計画

- 【今日のための働き】
–緊急の必要に応える働き–
- 生活物資の供給と片付けボランティア
(CRASH Japan等と連携)
 - CRASH Japan 仙台ベースキャンプの
設置運営に協力 (宮城県利府町)
- 【明日のための働き】
–生きていく励ましとなる働き–
- 励まし物資の供給
(少年野球の道具、音楽CDなど)
 - ゴスペルワークショップ、
慰問コンサートなどの音楽ボランティア
 - 未来を切り拓くリーダーの研究と育成
- 【永遠のための働き】
–深い心のケアの働き–
- 永遠に備えるためのパストラルケア
(オアシスチャペルと連携)



活動報告

2011.07.16-09.15

サドルバックチームとの共同支援



米国カリフォルニア州にあるサドルバックチャーチから派遣されたボランティアチーム（以下「サドルバックチーム」）と一緒に活動しました。サドルバックチームは4日間こちらに滞在し、石巻市の避難所で炊き出しを行ったり、南三陸町の幼稚園やオアシスチャペルでのかき氷サービスを行いました。

炊き出しはオアシスライフ・ケアとして初めての試みでしたが、サドルバックチームの協力もあり、大成功に終わりました。避難所暮らしで味気ない食事が続いている方々に、野菜の入ったフレッシュハンバーガーやハッシュドポテト、かき氷などを提供し、とても喜ばれました。また体育館の避難所に暮らしている子どもたちのために用意したレクリエーションスペースでは、子どもたちが満面の笑みで水ヨーヨーなどで遊んでいました。

幼稚園でかき氷提供を行った際は、いのちのことば社から寄贈された400冊の絵本もお渡ししました。帰り際、津波によって壊滅状態になった町の中心部に立ち寄り、瓦礫の中にあつた木で十字架を立て、祈る時を持つことができました。復興のための熱い祈りと協力が、国境を越えて実現しました。

星野富弘さんのカレンダー配布



被災者のみなさんが日々生きていくということだけではなく、少しでも未来に希望を持てるようお手伝いしたいと願っています。思案の末、一つのアイデアが与えられました。仮設住宅の入居者の中にはカレンダーさえも持っておられない方々がたくさんおられましたので、この方々に、星野富弘さんのカレンダーをお贈りするという企画です。星野さんの信仰と人格から出てくる、優しい絵とことばが、震災で傷ついた人々の心の慰めになるのではないかと考えました。早速、問い合わせたところ、カレンダーの製作元である株式会社グローリア・アーツさんとキリスト教主義の救援・支援団体CRASH Japanさんが快く協力をしてくださり、すぐに500部を確保できました。

そして、支援活動を行っている地元のクリスチャンたちを通して、仮設住宅を一軒一軒お訪ねしながらカレンダーをお渡ししました。カレンダーを介して会話を始め、被災した方々の声にじっくりと耳を傾けます。この方々の今日のニーズが支えられ、明日のニーズが満たされ、やがて永遠のニーズにつながっていくようにと祈りながら...

サッカーグッズの支援



南三陸町にある中学校のサッカー部を訪れ、サッカーグッズを寄贈しました。寄贈したものは、スタッフ菊地の知人がドイツでチャリティイベントを開き、集めてくださったものです。このイベントには、元日本代表選手の矢野貴章選手も協力してくださり、矢野選手のサイン入りカードも子供たちに贈ることができました。またサッカー日本代表である岡崎慎二選手が所属するVfBシュツットガルト（ドイツブンデスリーガ）から頂いた全選手のサイン入りユニフォームもお渡しすることができました。遠く離れたドイツにいる方々の思いが込められた支援物資に、子どもたちは驚きながら、とても喜んでくれました。

顧問の先生とお話しし、子どもたちの現在の生活や心の状態を聞くことができました。子どもたちのほとんどは親や友人、自分の家を震災で失いました。しかし、そのような非常に辛い境遇にあっても、周りの友達や仲間も同じ体験をしていて、心の深い部分で繋がれることが子どもたちにとって大きな支えになっていると仰っていました。私たちにできることは僅かですが、このような子どもたちを精一杯応援していきたいと願っています。

「つなげる」働き



とあるお宅に食器類を引き取りに行ってきた。一部の被災者の方々が瀬戸物を必要としているとの情報を発信したところ、その地区の方々が早速持ち寄ってくださったのです。その時、あるご婦人の方が「被災地に行き直接支援することが難しいので、代わりに何ができるのかをよく考えるの。こういう形で協力できて嬉しいです。」と仰ってくださいました。丁寧に包装されている食器もあり、地区の方々の心が表れているようでした。協力してくださった方々のお気持ちに感謝しつつ、物品を南三陸や若林区などの仮設入居者の方々に届けさせていただきました。

私たちは、被災者の方々と関わる一方で、「何か協力したい」と願っておられる方々との関わりも大切にしています。被災地の必要をよりの確に汲み取りながら、助けたいというお気持ちを持っておられる方々の想いのできるだけ応えたいと考えています。被災者の方々の必要と、助けたい方々の心・行動を具体的に「つなげる」働きを継続し、多くの支援を実現することによって、人々が永遠の必要に「つながる」ことを願っています。

「海友支援隊」さんへの協力



石巻市鮫浦湾のホヤ・ホタテ養殖の復興を目指す「海友支援隊」という団体があります。オアシスライフ・ケアではこれまで彼らと共に支援物資の配給や炊き出しなどを行ってきました。メンバーの方々は、津波による自宅流出などの被害にあいながらも、地元の漁師の方々の生活再建のために立ち上がり、復興を目指して尽力しておられます。

先日、この海友支援隊のスタッフの方々が、利府町にあるオアシスチャペルの日曜礼拝を訪問してくださいました。米国や香港からのボランティアも含めて約120人が、大きな拍手で彼らを迎えました。礼拝では「イエス・キリストに信頼し続けるとき、苦難は失望に終わることがない」という聖書のメッセージが語られましたが、海友支援隊の稲井代表はこれを受けて「これまでの支援ありがとうございます。今日も元気をもらいました。どんな苦難があってもあきらめず歩んでいきます！」と涙ぐみながら挨拶をしてくださいました。オアシスライフ・ケアは今後も海友支援隊さんの復興活動を応援し続けます。

キッズ・ゴスペル・サマースクール



オアシスチャペル主催で「キッズ・ゴスペル・サマースクール」という子ども向けの夏休みイベント（3日間）を開催しました（オアシスライフ・ケアも後援・協賛）。ゴスペルの講師として日本全国で活躍している粟野めぐみ先生を、レクリエーションのプログラム担当として香港キャンパスクルセードのボランティアチームをお招きしました。参加した子どもたちは粟野先生の面白くて確実に上達していく指導のもと、楽しみながら歌いまくり、踊りまくりました。また、子どもたちはゴスペルクワイアを結成し地域の夏祭りに出演。ご両親や町の方々、そしてなんと利府町長さんも見ている前で、緊張しながらもゴスペルを精一杯歌いました。ステージは大盛況で、一緒に踊り出す人や手拍子で応援してくれる人で賑わいました。翌日の礼拝でも、子どもたちは100名近くの人々の前でゴスペルを披露しました。ゴスペルに元気をもたらした子どもたちが、地域に元気を分け与える素晴らしいイベントとなりました。協賛してくださったCRASH Japanさん、日本国際飢餓対策機構さんに感謝いたします。



アートセラピー



クリスチャン画家である井上達夫さんをお招きしてアートセラピーを行いました。井上さんは「希望の木プロジェクト」というアートによる被災地支援活動を行っています。

「希望の木プロジェクト」は、被災した方々の心の中にある「消化しきれない思いや言葉にできない声」を、一緒に「アート」にする中で分かち合い、彼らの心に寄り添う活動です。これまで、仮設住宅や被災地の幼稚園でのアートセラピーを開催してこられました。

今回は、幼児を対象としたアートセラピーを行っていただきました。小さな子どもたちが自分の手を使って、自分の好きなように、スタッフと一緒に絵を描いていきます。使いたい色を自分で選び、筆を使わずになんと自分の手で直接塗るのです。子どもたちは自分の感情をうまく言葉で表現できませんが、絵と一緒に描くことを通して、自分自身を表現することの楽しさや受容されることの喜びを体験していくことができるそうです。協力していただいた井上達夫さん、そして聖書キリスト教会 東京教会のチームのみなさん、本当にありがとうございました！

Kaz Katoさんのコンサート



「震災以来、ずっと心がモヤモヤしていたが、初めて胸がスカッとしました。」

震災でご主人を亡くし、周りに友人知人が一人もいない中、仮設住宅に住んでいるおばあさんがKaz Katoさんの演奏を聴いた後にそう仰っていました。

Kaz Katoさんは平井堅やMisiaなど多数のトップアーティストのツアーやレコーディングに参加した一流のキーボーティストです。この度、オアシスライフ・ケアの活動に協力していただき、南三陸町や多賀城市、利府町や仙台市などで、キーボードやピアノによるゴスペルを演奏していただきました。「東北のためだったら何でもやります！」と言って、4日間で6回のコンサートという無理なお願いに応えていただきました。

Kazさんは目の前にいる被災地の人々を想い、涙を流しながら、心を込めてキーボードを叩いていました。Kazさんの想いは、被災地の人々の心に触れ、多くの人々が涙を流しながら演奏に聞き入っていました。Kazさんが伴奏し、会衆全員で合唱した「ふるさと」は人々の心に深く刻まれたことでしょう。

沼田フェスタ



南三陸町・沼田地区のコミュニティセンターにて「沼田フェスタ」というお祭りを開催しました。250名近くの人々に来ていただき、ゴスペルミュージシャンであるKaz Katoさんのコンサート・炊き出し・マッサージ・かき氷提供・カフェ・子どもレク・無料フリマ・利府町名産の梨のお持ち帰りサービスなどなど、多くのプログラムを提供することができました。オアシスライフ・ケア主催としては過去最大のイベントとなりましたが、聖書キリスト教会さんやCRASH Japanさんなどの協力もあり、沼田の方々に大変喜ばれるお祭りとなりました。

今回は「支援する側」と「支援される側」という垣根を無くし、沼田の方々と一緒にお祭りを作り上げていきました。会場設営に始まり、お菓子作りやかき氷の提供、炊き出しや後片付けまで、ほとんどの作業を”協力して”行うことができました。震災後、地道に沼田地区への支援を続け、信頼関係を築かせていただいた成果と感じています。永遠の必要が満たされることを願って、今後も着実に支援を続けていきたいと考えています。



会計報告とご協力のお願い

オアシスライフ・ケアの働きは、多くの方々のご支援、ご協力によって成り立っています。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。この働きを長く、効果的に続けていくため、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

2011年3月11日～9月14日までの収支報告

	合計金額	科目
収入	¥9,065,252	献金、支援金
支出	¥6,065,686	被災地に届ける物資、機材・備品、ガソリン代、スタッフ人件費 他
残高	¥2,999,566	今後の働きのために繰り越し

上記の通り報告いたします。

2011年9月15日

支援金窓口

【三菱東京UFJ銀行】

支店名：仙台支店 口座番号：普通 0242364
口座名：オアシスライフ・ケア 代表 松田牧人

【ゆうちょ銀行】

- ・他金融機関より
店名：八一八（読みハチイチハチ）
口座番号：普通 4130375
口座名：オアシスライフ・ケア
- ・ゆうちょ銀行より
記号：18110 番号：41303751
口座名：オアシスライフ・ケア

関連情報

スタッフ

代表：松田牧人（オアシスチャペル利府キリスト教会 牧師）
スタッフ：菊地祥彦
スタッフ：國分圭介
スタッフ：郡山英明（CRASH Japan 仙台ベースに出向）
スタッフ：松田献（CRASH Japan 仙台ベースに出向）
スタッフ：三浦良太（CRASH Japan 仙台ベースに出向）
会 計：渡辺綾子

連絡先

事務所：〒981-0104 宮城県宮城郡利府町中央2-5-1
(利府キリスト教会内)
TEL&FAX：022-356-2494 (利府キリスト教会)
E-mail：oasislifecare@gmail.com

Webサイト

Webページ：<http://oasislifecare.org>
Facebookページ：<http://www.facebook.com/OasisLifeCARE>
Twitter：<http://twitter.com/#!/OasisLifeCARE>

賛同者

尾山清仁・キャシー（聖書キリスト教会東京教会・牧師）
加賀洋子（ASKアカデミー・ジャパン株式会社 CEO）
葛西浩二（有限会社テレビジョンワークス・代表取締役）
Kaz Kato（ミュージシャン）
郡山榮次郎（心療内科医）
篠田真宏（ゴールデンルールリミテッド・代表）
ジェイソン・エワート（作家/Australian of the Year nominee 2007）
中村佐知（翻訳者/心理学者〈Ph.D.〉/JCFN理事）
日野 哲（東北学院大学・総務部長）
藤掛 明（聖学院大学総合研究所・准教授/臨床心理士）
藤原淳賀（聖学院大学総合研究所・教授/恵約宣教教会・牧師）
松田和憲（関東学院大学工学部・教授/関東学院教会・牧師）
渡邊忠雄（元 東北大学大学院工学研究科・教授/
中国<瀋陽> 東北大学・客員教授）

※50音順/敬称略/2011年9月15日現在

協力団体

- ・日本バプテスト同盟
- ・CRASH Japan
- ・Bridges For Peace JAPAN